

S. K. 社会システム学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

きっかけは1回生の時に第2言語として中国語を選択したことです。元々英語が苦手だった事から、中国語学習がとても楽しく好きになりました。1回生の終わりにたまたま見た同女のHPのニュース欄に台湾留学についての記事があり、非常に興味を持ちました。

② 留学を目指してから出願までの学習方法

台湾留学に興味を持った当時は、中国語の検定は中検4級しか持っておらず応募できませんでした。そのためHSKの勉強を始め、2回生の6月にHSK4級を取得しました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

第2言語の授業は1回生の時しかなかったもので、2回生から自分で中国語教室に通い始め、出発まで勉強を続けました。ビザは大阪の台日経済文化代表処にて発行しました。その他健康診断書を病院で発行してもらったり、現地で使うカードを作るために銀行に行ったりもしました。

④ 現地到着後

桃園空港到着後は、静宜大学のIFBの方達が大学までバスで連れて行ってくれました。到着してすぐに入寮手続きを済ませ、その翌日に中国語のクラス分けテストが行われ、その翌日には留学生のオリエンテーションがありました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

寮から教室は歩いて5分ほどです。学校内には3つの食堂があり、どれも寮から近いので非常に便利でした。

◆ 授業内容、課題、試験

中国語のクラスは全て中国語で授業が行われ、一課が終わるごとに小テストがありました。静宜大学は学期ごとに中間期末試験があります。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 履修科目

・ ECONOMIC HISTORY OF CONTEMPORARY TAIWAN AND JAPAN

日本人の先生の授業で台湾と日本の関係を学びました。後半は個人のプレゼンテーションがありました。この先生には授業の事だけではなく、留学開始から何から何まで本当にお世話になりました。何でも相談できる先生だと思います。

・ TOURISM JAPANESE 1

日本語学科の授業で観光日本語について学びました。授業と試験は日本語中国語半々でし

た。

・ 実用商務華語

全て中国語の授業で、最後はグループでプレゼンテーションがありました。

・ 日本商務文化禮儀

日本語学科の授業で学科の生徒をサポートしながら一緒に日本のビジネスマナーを学びました。語学力の向上というよりは、これから社会人になるために必要なビジネスマナーを学ぶ授業で、帰国後就活を始める私としては勉強になることが多かったです。

・ BUSINESS JAPANESE

日本商務文化禮儀と同じ形式の授業です。この2つの授業のお陰で、日本語学科の生徒の友達がたくさんできました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブに入っている友達は多かったです。留学生向けのボランティアがたくさんあり、大学の様々な学科の子と交流できる機会が多くありました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

寮は4人部屋で、最初は全員日本人でしたが、台湾人と関わりたいという希望者が多く、1か月後ぐらいにルームメイトが変わり、台湾人2人と日本人2人で生活しました。お風呂とトイレは共同でした。ご飯は学校の食堂で食べたり、外にお店がたくさんあるので色々なところで食べていました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

10月の初めに5連休があったため、同じ留学生の子と一緒にフィリピンへ行きました。11月は9連休ある人が多く、香港・韓国に行っている人、台湾の様々な場所に旅行に行っている人が多かったです。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

同じ3年生の子と、就職活動について話し合ったり、同じ悩みを共有したりしていました。就職活動はこれといって何かしていたわけではありませんが、留学しながら将来やりたいことを考えていました。業界研究は帰国後から始めました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは、台中に大学があるため台湾の様々なところに行けたことです。台湾の友達が台北・台南・南投に連れて行ってきて案内してくれました。思い出に残っていることは、高雄から台中に帰ってきた時、バスに忘れ物をしてしまった事です。その時は中国語で電話をする勇気はなく、台湾の友達に助けられました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

辛かったことはルームメイトが変わったときです。最初はお互いコミュニケーションが上手いかず、しんどい時もありましたが、簡単な会話から少しずつ打ち解けていき、お互いの誕生日をルームメイトみんなでお祝いして、一緒にケーキを食べたりできるようになりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

台湾では日本よりも半年早く学校が始まるため、同じ3年生だと思っていた子が実は年下だったという事がよくありました。日本のようにみんな一緒に就職活動をするという文化がなく、4年で卒業せず留学に行ったりする子が多く、国民性の違いを感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

台湾では有名な大学で、どこに行っても静宜大学のことを知っている人がいました。大学がチューターを2人つけてくれました。さらに日本語学科のレベルが高く、何かあったときに頼れる友達がいるというのが、とても心強かったです。寮の衛生面はあまりよくなかったように思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは授業で使うことはありませんが、課題作成の際に必要でしたし、寮はテレビがないので役立ちました。後は消臭スプレー、ダニ取りシート、ブランケットが役に立ちました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前は、中国語の読み書きばかりを勉強していたので、リスニングと会話がほとんどできていませんでした。しかし耳はとても良くなったように思います。正規科目授業の中国語も2か月経ったころには7割は理解できるようになっていたように思います。帰国後中国語教室の先生と中国語で会話できるようになりました。中国語でラインをするのも早くなりました。台湾は繁体字を使っているので、簡体字しか知らない私は最初苦勞しましたが、1か月もしないうちに慣れました。耳は良くなりましたが、会話は思い描いていたようにはなりません。簡単な日常会話ぐらいです。もし1年留学に行っていたら、もう少し成長出来ていたのかなと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

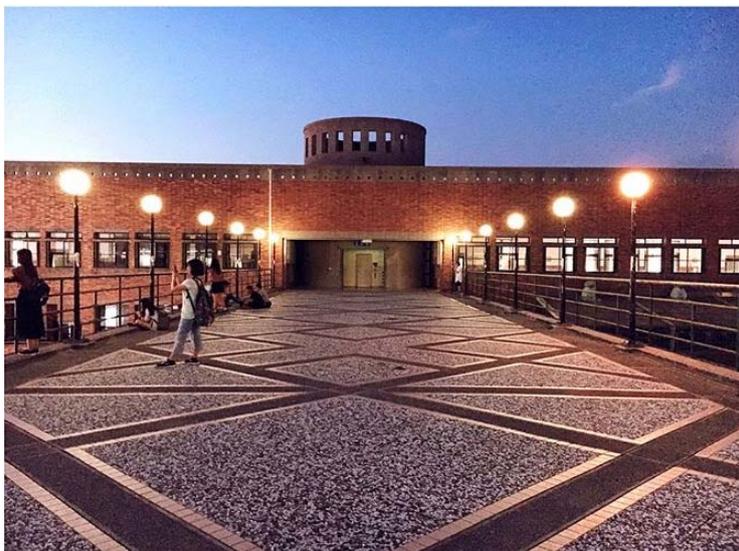
留学をするという事は、人生において1つの大きな決断になると思います。私は大学に入った時、留学なんて他人事だ、縁のないことだと思っていました。しかし留学を終えた今、挑戦してみて良かったと思っています。日本という国を客観的に見ることができずし、いろんな人と関わることで様々な考え方があることを知り、何事にも寛容になることができるようになったと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

アジア事業に積極的に力を入れている、将来海外で働ける可能性がある企業に就職したいと考えています。

V. 写真



静宜大学の有名な写真スポット



台湾の友達との学校での写真



大学の正門